

平成 31 年 度

**福岡女子大学大学院人文社会科学研究科
言語文化専攻・社会科学専攻
【博士前期課程】
案 内**

(付) 平成31年度福岡女子大学大学院人文社会科学研究科
言語文化専攻・社会科学専攻【博士前期課程】
学 生 募 集 要 項
(一般選抜・社会人特別選抜・留学生特別選抜)

公立大学法人
福岡女子大学

〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘1丁目1番1号
電話 (092) 661-2411(代表)
URL <http://www.fwu.ac.jp/>

目 次

1	福岡女子大学の沿革	1
2	福岡女子大学大学院人文社会科学研究科 博士前期課程の特色とアドミッションポリシー	1
3	教育課程の編成	2
4	教育職員免許状	3
5	社会人の入学について	3
6	長期履修学生制度	3
7	授業科目、担当者及び単位数	4
8	研究領域と主な研究内容	6
9	交通案内	9

(付) ○ 平成 31 年度福岡女子大学大学院人文社会科学研究科 言語文化専攻・社会科学専攻
【博士前期課程】学生募集要項（一般選抜・社会人特別選抜・留学生特別選抜）

- 入学願書、受験票
- 研究志望調書様式
- 入学者選拔出願資格認定申請書
- 在職期間証明書
- 入学考査料振込依頼

1 福岡女子大学の沿革

福岡女子大学の前身は、大正 12 年（1923 年）にわが国最初の公立女子専門学校として設置された福岡県女子専門学校（文科、家政科）です。昭和 25 年（1950 年）の学制改革に応じて福岡女子大学となり、当初は学芸学部（国文学科、英文学科、生活科学科）のみの単科大学として発足しましたが、昭和 29 年（1954 年）に文学部（国文学科、英文学科）と家政学部（家政学科、家庭理学科）の 2 学部構成となりました。平成 5 年（1993 年）に、大学院文学研究科修士課程（国文学専攻、英文学専攻）が開設され、平成 9 年（1997 年）にはさらに英文学専攻の博士後期課程が設置されました。一方、家政学部は平成 7 年（1995 年）に人間環境学部（環境理学科、栄養健康科学科、生活環境学科）に改組された後、平成 12 年（2000 年）に、大学院人間環境学研究科博士前期（環境理学専攻、栄養健康科学専攻、生活環境学専攻）が設置されました。

平成 18 年（2006 年）より公立大学法人福岡女子大学となってさらに大学改革が推進され、平成 23 年（2011 年）には新たに、国際化、多様化する社会で幅広く活躍できる女性リーダーの育成を基本理念とする 1 学部 3 学科体制の国際文理学部（国際教養学科、環境科学科、食・健康学科）が設置され、学部理念のもとに、既設の大学院 2 研究科を充実・発展させた新たな専門教育研究機関としての大学院人文社会科学研究科及び人間環境科学研究科が平成 27 年（2015 年）4 月に開設されました。

このように本学は開学以来 95 年の歴史と伝統をもち、その間に送り出した卒業生・大学院修士生は各方面で活躍し、広く社会に貢献しています。

2 福岡女子大学大学院人文社会科学研究科博士前期課程の特色とアドミッション・ポリシー

（1）特色

本学建学の理念である「次代の女性リーダー育成」を人文社会の学問領域から実現するため、人文社会科学研究科に「言語文化専攻」と「社会科学専攻」の 2 専攻を設置しました。グローバル化し、地域の文化、社会、経済、法が相互密接に影響し合う現代社会において、必要とされる専門的知識と実践的な能力を備えた高度専門人材を養成することが、本研究科設立の目的です。

言語文化専攻では、「日本言語文化コース」と「英語圏言語文化コース」の 2 つのコースを設け、日本と英語圏地域を対象に蓄積されてきた言語文化の知の総体を深く理解し、グローバルな視点で新たにそれを再構成する批判的な研究態度を修得します。

社会科学専攻では、「国際産業社会コース」と「国際関係コース」の 2 コースを設け、国際社会の広範かつ多様な現象を、経済活動と政治的側面から解明し、それを実社会に適用しうる、高度専門人材を育成します。

具体的には、各コースの特色は次のとおりです。

言語文化専攻

<日本言語文化コース>

言語・文学・歴史を中心とした日本文化を研究対象とする。学際的手法および比較文学的手法を多く取り込むことによって、従来型の国文学研究とは異なる新たな視点を獲得し、複雑で多岐にわたる日本文化を総合的に研究する。グローバル社会を相対的に捉えることができる思考力と、日本文化を世界に向けて発信できる専門知識を持ち、文化交流や教育の場で活躍する人材を育成する。

<英語圏言語文化コース>

西欧の文化史を踏まえて、主に英語圏の言語文化と社会及び思想について共時かつ通時的な専門的知識を深めるとともに、文字や視覚文化を批判的に読解・解釈するための諸理論を学び、アジアに立つ知的教養人として、言語文化にまつわる諸問題を独創的に分析・解明する能力を養う。また、語学力をさらに向上させ、自らの分析やアイデアを地域社会や世界に向け、説得的に発信・提言しうる対話力を育成する。

社会科学専攻

<国際産業社会コース>

日本とアジアさらには欧米の経済社会をめぐる課題とその探究は重要な教育研究課題になっている。グローバルな経済や社会そしてその担い手である企業をめぐるさまざまな現象を、理論と実証を通じ

て解釈し理解することを目指して教育研究を展開する。本コース履修により、産業社会で活躍する女性の高度専門人材や、研究・教育機関で活躍する専門人材の育成を目指す。

<国際関係コース>

国際社会は政治的、社会的、文化的にも複雑な様相を深めており、現代社会に問いかける諸問題の分析と現象を説明する理論の探求は重要になっている。このような問題に対して、政治を支える思想や価値観への哲学的な理解を促しつつ、法学や政治学、国際協力、社会学等の専門知識を統合して探究する。この履修コースを通じて、グローバル化する社会の各分野で活躍する高度専門人材や、研究・教育機関で活躍する専門人材の育成を目指す。

(2) アドミッション・ポリシー

高度な専門性を基に社会で活躍する女性リーダーや研究教育機関で研究教育者をめざす学部卒業生や社会人を募り、大学院で主体的に研究を遂行するために必要な研究能力、専門学力や国際的な教養を重視する。特に、次のような能力・意欲を有する女子学生や社会人を求めたい。

- ① 人文社会科学分野に関心が深く、自らを高める向上心に満ち、かつ知的好奇心や創造性に富んでいること。
- ② 研究に対し、積極的かつ主体的に取り組む姿勢を持っていること。
- ③ 人文社会科学に関する基礎学力や専門知識を有していること。
- ④ 人間の文化や言語あるいは国際的な経済、政治、社会や企業活動等から生じる問題や現象の分析に関心が高いこと。
- ⑤ 研究成果を女性が活躍する男女共同参画型社会の創生のために提案・還元する意欲を有すること。

専攻ごとのアドミッション・ポリシーは以下のとおりです。

言語文化専攻

歴史や言語文化活動に強い関心と研究意欲をもち、研究遂行に必要な学力を有し、意志が明確な学生を募る。修了後に、専門知識を活かして、リーダーとして国内外で文化を発信し広く活躍できる者、教員の専修免許状を取得し教育の現場で活躍し指導的立場に立とうとする者、研究者として研究活動をめざす者などを求める。

社会科学専攻

現代の国際社会や企業等の経済活動に積極的な関心をもち、大学院での研究活動を主体的に推進するために必要な専門知識や意欲の強い学生を募る。修了後の進路は多様であるが、高度な専門能力を基に次代の女性リーダーとして国際社会での活躍や専門的な研究活動や教育活動を追求する進学者を求める。

3 教育課程の編成

人文社会科学研究科の教育課程は、国際文学部での全学共通科目（教養科目）と専門科目を有機的に組み上げた少人数教育によるカリキュラムの基礎の上に、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻領域における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要な能力を養い、もって本学の教育理念である「次代の女性リーダーの育成」を目指すべく編成している。この目的を実現するために、教育課程の編成において、専門科目のほかに、基本科目と研究指導科目の区分を設ける。（授業科目の詳細については、P4～ P5 参照）

- ① 基本科目（選択・必修 4 単位以上）：研究倫理の心得や調査研究活動に必要なツールと発表技術は、専攻の如何にかかわらず、研究を志すものには必須の資質であり、それらを保証するために 6 科目を提供する。この中から、必修の「研究の倫理と方法」を含む 4 単位以上を履修するものとする。
- ② 研究指導科目（必修 8 単位）：「修士特別研究」を設け、修士論文の指導を行う。
- ③ 専門科目（選択 18 単位）：研究テーマを系統的に深めることができるよう、各専攻・コースに多彩な専門科目を準備している。両専攻とも、18 単位以上（ただし、所属する各コースの科目から 12 単位以上）を選択履修するものとする。

なお、言語文化専攻の専門科目内に、両コース共通の科目群を設け、言語文化研究の理念を実現するための専門的共通基盤を保証する。

同様に、社会科学専攻の専門科目内に、両コースに共通の「国際演習Ⅰ・Ⅱ」を必修科目として設け、学問分野を超えた議論の場を保証する。

修了要件は、本課程に2年以上在学し、30単位（基本科目4単位、専門科目18単位、研究指導科目8単位）以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績をあげた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。

4 教育職員免許状

言語文化専攻博士前期課程を修了し、所定の科目の単位を修得した者は、次の教育職員免許状を取得することができます。

専攻名	免許状の種類	教科
言語文化専攻博士前期課程	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	国語
	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	英語

5 社会人の入学について

(1) 社会人の受け入れ

生涯学習の一環として、大学を卒業し企業、教育機関、官公庁、各種施設等で活躍している社会人で、さらに高度な学識や技術を修得するために大学院へ進学しようとする機運が高まっています。人文社会科学研究科博士前期では、このような向学の志を抱く社会人に積極的に応えるために、一般選抜に準じた選抜試験を課したうえで受け入れ、下記の特例措置をはじめ種々の履修方法を準備しています。

(2) 社会人のための特例措置

教育方法の特例措置とは、現職教員、公務員、一般企業の社員、団体・施設等の職員の社会人が、昼間に勤務しながら夜間または土曜日に通学し、修了することができる措置のことです。ただし、この特例の適用を受ける場合においても、原則として1年次においては昼間開講の授業を履修しなければなりません。2年次には、指導教員の承諾を得て、夜間その他特定の時間または時期に授業または研究指導を受けることができます。

この教育方法の特例を適用し夜間に授業を実施する場合は、月曜日から金曜日の16時20分から21時10分までとします。また、授業科目によっては、土曜日及び夏期・冬期休業期間中に集中で開講する場合があります。

6 長期履修制度

本研究科では、意欲ある社会人の入学を促進するため、「長期履修制度」を導入しています。これは、職業を有している等の理由で、一般の学生に比べ年間に修得できる単位数や研究活動への時間が限定されるため、標準の修業年間（博士前期課程は2年）で修了することが困難な学生を対象に、長期の在学期間を計画的に設定して履修することを認めるものです。

本制度を利用することで、標準修業年限の授業料により、博士前期課程では修業期間を最長4年間まで延長して、必要単位を修得し修士の学位を取得することが可能です。

7 授業科目、担当者及び単位数

人文社会科学部 言語文化専攻博士前期課程 授業科目

分野	授業科目	担当者	授業年次	単位数			
専 門 科 目	日 本 言 語 文 化 コ ー ス	日本語教育特別研究	橋本 直幸	1・2前	2		
		音韻・表記特別研究	坂本 浩一	1・2前	2		
		日本語文法特別研究	坂本 浩一	1・2後	2		
		日本史特別研究	渡邊 俊	1・2後	2		
		古典文学特別研究Ⅰ	月野 文子	1・2前	2		
		古典文学特別研究Ⅱ	今井 明	1・2後	2		
		古典文学特別研究Ⅲ	大久保 順子	1・2前	2		
		近・現代文学特別研究	坂口 周	1・2後	2		
		視覚文化特別研究	坂口 周	1・2前	2		
		日本学特別演習Ⅰ	今井、月野、坂本、大久保、坂口	1前	2		
		日本学特別演習Ⅱ	今井、月野、坂本、大久保、坂口	1後	2		
		日本学特別演習Ⅲ	渡邊 俊	1前	2		
		日本学特別演習Ⅳ	渡邊 俊	1後	2		
		日本語教育実習	橋本 直幸	1・2後	2		
		原典講読Ⅰ	今井、月野、大久保	1後	2		
		原典講読Ⅱ	坂本、渡邊	2前	2		
		日本語学特別講義	山内 博之（非常勤）	1・2前	2		
		漢文学特別講義	岡村 真寿美（非常勤）	1・2前	2		
		国文学特別講義	未定（非常勤）	1・2前	2		
		英 語 圏 言 語 文 化 コ ー ス	英 語 圏 言 語 文 化 コ ー ス	英語圏文学と文化特別研究Ⅰ	小谷、長岡	1・2前	2
英語圏文学と文化特別研究Ⅱ	宮川 美佐子			1・2前	2		
英語圏文学と歴史特別研究Ⅰ	小谷、長岡			1・2後	2		
英語圏文学と歴史特別研究Ⅱ	宮川 美佐子			1・2後	2		
英語と文化特別研究Ⅰ	村長 祥子			1・2前	2		
英語と文化特別研究Ⅱ	向井 剛（非常勤）			1・2前	2		
英語と歴史特別研究Ⅰ	村長 祥子			1・2後	2		
英語と歴史特別研究Ⅱ	向井 剛（非常勤）			1・2後	2		
英語圏文学・言語とジェンダー特別演習	ウォレン、長岡			1・2前	2		
西欧文化史特別研究	藤原 翔太			1・2前	2		
英語圏言語文化文献講読Ⅰ	小谷、宮川			1・2前	2		
英語圏言語文化文献講読Ⅱ	小谷、宮川、長岡			1・2後	2		
英語圏言語文化文献講読Ⅲ	ウォレン、村長			1・2前	2		
英語圏言語文化文献講読Ⅳ	ウォレン、村長			1・2後	2		
第二言語習得概論	桜井 静（非常勤）			1・2前	2		
英語圏言語文化特別講義Ⅰ	デニス・ジョーンズ（非常勤）			1・2前	2		
英語圏言語文化特別講義Ⅱ	デニス・ジョーンズ（非常勤）			1・2後	2		
英語圏言語文化特別講義Ⅲ	西村 秀夫（非常勤）			1・2後	2		
共 通	共 通			比較文学研究Ⅰ	長岡 真吾	1・2後	2
				比較文学研究Ⅱ	月野、大久保	1・2後	2
		世界の中の日本伝統文化	S. ホルスト	1・2後	2		
		漢字文化圏の比較文化史研究	月野、渡邊、岡	1・2前	2		
		書物と印刷	向井 剛（非常勤）	1・2前	2		
		総合演習Ⅰ	言語文化専攻研究指導教員全員	1通	1		
		総合演習Ⅱ	言語文化専攻研究指導教員全員	2通	1		
基 本 科 目	基 本 科 目	研究の倫理と方法	下條 恵子（非常勤）	1・2前	2		
		歴史と社会	S. ホルスト	1・2前	2		
		グローバル社会と英語	N. ウォレン	1・2前	2		
		アカデミックライティング・プレゼンテーション	ウィリアム・R. ペロー（非常勤）	1・2後	2		
		人文社会統計学	藤野 友和	1・2後	2		
		国際研究活動	山下、ウォレン、チョウドリ、宮崎、 吉田、徐、橋本	1・2前後	2		
		デザイン思考	田村 大（非常勤）	1・2前	2		
		リーダーシップ特別演習	平山 猛（非常勤）	1・2前	2		
研究指導 科目	修士特別研究	今井、月野、ウォレン、坂本、長岡、大久保、 宮川、小谷、村長、渡邊、橋本	1～2	8			

人文社会科学部 社会科学専攻博士前期課程 授業科目

分野	授業科目	担当者	授業年次	単位数	
専 門 科 目	国際 産 業 社 会 コ ー ス	産業社会解釈特別研究	森 邦昭	1前	2
		東アジア人口論特別研究	尹 豪	1・2後	2
		マクロ経済学特別研究Ⅰ	佐藤 秀樹	1・2前	2
		マクロ経済学特別研究Ⅱ	佐藤 秀樹	1・2後	2
		ミクロ経済学特別研究Ⅰ	中村 大輔	1・2前	2
		ミクロ経済学特別研究Ⅱ	中村 大輔	1・2後	2
		国際経済学特別研究Ⅰ	広瀬 恭子 (非常勤)	1・2前	2
		国際経済学特別研究Ⅱ	広瀬 恭子 (非常勤)	1・2後	2
		経営学特別研究Ⅰ	櫻木 理江	1・2前	2
		経営学特別研究Ⅱ	櫻木 理江	1・2後	2
		国際経営特別研究Ⅰ	チョウドリ マハブブル アロム	1・2前	2
		国際経営特別研究Ⅱ	チョウドリ マハブブル アロム	1・2後	2
		人間関係論特別研究	鈴木 有美	1・2前	2
	国際 関 係 コ ー ス	国際関係論特別研究Ⅰ	吉田 信	1・2前	2
		国際関係論特別研究Ⅱ	吉田 信	1・2後	2
		国際法特別研究Ⅰ	深町 朋子	1・2前	2
		国際法特別研究Ⅱ	深町 朋子	1・2後	2
		比較憲法学特別研究	岡 克彦	1・2後	2
		国際関係史特別研究Ⅰ	馬場 優	1・2前	2
		国際関係史特別研究Ⅱ	馬場 優	1・2後	2
		政治哲学特別研究	望月 俊孝	1・2後	2
		グローバル協力論特別研究Ⅰ	ジャヤセーナ パスマシリ	1・2前	2
		グローバル協力論特別研究Ⅱ	ジャヤセーナ パスマシリ	1・2後	2
		国際社会学特別研究Ⅰ	徐 阿貴	1・2前	2
		国際社会学特別研究Ⅱ	徐 阿貴	1・2後	2
		ジェンダー特別研究	宮崎 聖子	1・2前	2
		比較社会特別研究	宮崎 聖子	1・2後	2
		比較地域文化特別研究	金 希京	1・2前	2
		文学・文化交渉特別研究Ⅰ	武 継平	1・2前	2
		文学・文化交渉特別研究Ⅱ	武 継平	1・2後	2
	国際機構論特別研究	山下 哲生	1・2後	2	
	東アジア政治論特別研究Ⅰ	山根 健至	1・2前	2	
	東アジア政治論特別研究Ⅱ	山根 健至	1・2後	2	
共 通	国際演習Ⅰ	社会科学専攻研究指導教員全員	1通	1	
	国際演習Ⅱ	社会科学専攻研究指導教員全員	2通	1	
基 本 科 目	研究の倫理と方法	下條 恵子 (非常勤)	1・2前	2	
	歴史と社会	ホルスト	1・2前	2	
	グローバル社会と英語	N・ウォレン	1・2後	2	
	アカデミックライティング・プレゼンテーション	ウィリアム, R. ペロー (非常勤)	1・2後	2	
	人文社会統計学	藤野 友和	1・2後	2	
	国際研究活動	山下、ウォレン、チョウドリ、宮崎、 吉田、徐、橋本	1・2前後	2	
	デザイン思考	田村 大 (非常勤)	1・2前	2	
	リーダーシップ特別演習	平山 猛 (非常勤)	1・2前	2	
研究指導 科目	修士特別研究	尹、武、森、望月、岡、チョウドリ、宮崎、佐藤、 山下、吉田、深町、中村、鈴木、ジャヤセーナ、 馬場、徐	1～2	8	

8 研究領域と主な研究内容

言語文化専攻 <日本語文化コース>

教員名	研究領域	主な研究内容
今井 明	日本中古文学 日本中世文学	・中古文学 散文・韻文 ・中世文学 散文・韻文
月野 文子	日本上代文学 中国古典文学 和漢比較文学	・『万葉集』、『古事記』、『懐風藻』などの研究 ・中国古典文学(主として漢詩) ・和漢比較文学領域全般
坂本 浩一	日本語学	・日本語の歴史に関する研究 ・日本語の語彙・語法に関する研究 ・地域言語・方言に関する研究
大久保 順子	日本近世文学	・仮名草子と近世説話の研究 ・西鶴浮世草子の研究 ・近世以降の古典文学受容史研究
橋本 直幸	日本語教育学 日本語学	・日本語教育のための語彙・文法の研究 ・第二言語としての日本語の習得研究 ・コーパスを用いた語彙・文法の研究
渡邊 俊	日本中世史	・刑事法史 ・武家政権成立史 ・宗教と社会
坂口 周	日本近代文学 日本現代文学	・20世紀(明治・大正・昭和)文学・評論の研究 ・冷戦後文化論

言語文化専攻 <英語圏言語文化コース>

教員名	研究領域	主な研究内容
長岡 真吾	アメリカ文学・文化	・米国の歴史／社会と文学・文化表象との相互作用 ・エスニシティ(民族性)と文化交雑
小谷 耕二	アメリカ文学	・アメリカ南部文学、南部文化史 ・黒人文学
N. ウォレン	English lexicology	・語源学 ・語彙研究(特に、英語における日本語借用語。新語研究)
S. ホルスト	近世・近代の文化と社会(比較文化)	・祭り ・19世紀の演劇 ・観光・レジャー文化
宮川 美佐子	英文学	・近現代小説 ・前期モダニズム小説
村長 祥子	英語学	・古英語散文統語論 ・中世英語文献学
藤原 翔太	フランス近代史	・フランス革命・ナポレオン時代の歴史 ・行政社会史 ・中央と地方の関係の歴史

社会科学専攻 <国際産業社会コース>

教員名	研究領域	主な研究内容
森 邦昭	解釈学	・組織の解釈学 ・産業社会の変貌
尹 豪	経済人口学	・少子高齢化 ・人口政策 ・国際移動
チョウドリ マハブブル アロム	国際経営	・日本企業の国際的経営組織 ・国際経営に関するアジア諸国での実証的考察 ・アジア企業に関する理論的分析
鈴木 有美	心理学	・人間関係 ・精神的健康
中村 大輔	ミクロ経済学	・社会的厚生に関する研究 ・空間経済学と立地理論 ・持続可能な地域政策
佐藤 秀樹	経済政策	・政府の価値判断と貧困層への課税に関する理論的研究 ・途上国の政策課題に対する経済理論的アプローチ
櫻木 理江	経営学	・製品戦略 ・組織とマーケティング戦略 ・インターンシップの教育効果

社会科学専攻 <国際関係コース>

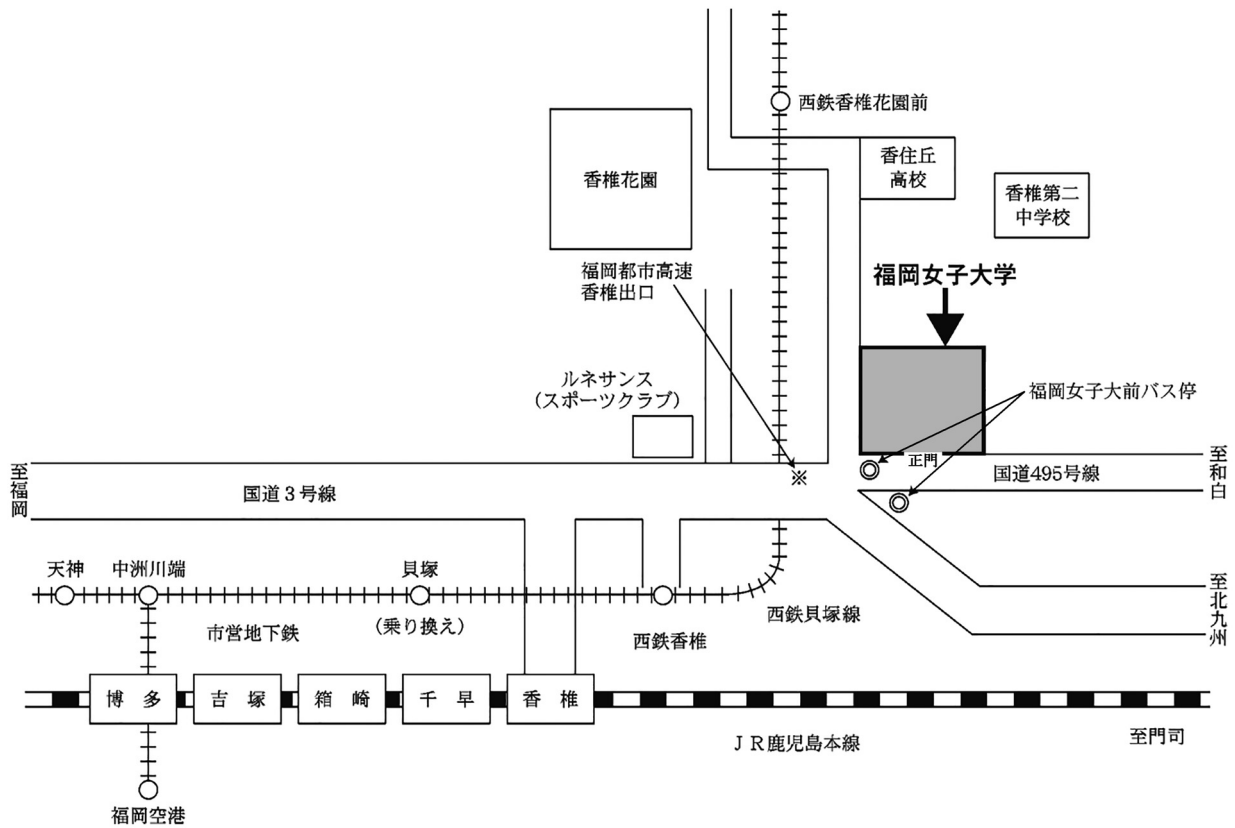
教員名	研究領域	主な研究内容
望月 俊孝	哲学 倫理学	・国際政治哲学 ・世界市民的見地の倫理学
岡 克彦	比較憲法学	・違憲審査制度 ・憲法思想史研究
深町 朋子	国際法	・国家領域法 ・海洋法
吉田 信	国際関係論	・国際関係の理論・実証研究 ・ポストコロニアル研究 ・ヨーロッパの WLB (ワーク・ライフ・バランス) 政策
ジャヤセーナ パスマシリ	批判的安全保障論 平和研究	・グローバル協力・グローバル市民社会 ・国際化とアイデンティティ ・新興国の台頭とアジアの安全保障
馬場 優	国際関係史	・国際政治史 ・ヨーロッパ外交史 ・ヨーロッパ政治史
徐 阿貴	国際社会学	・移民政策 ・移民コミュニティ ・マイノリティ運動
宮崎 聖子	ジェンダー、台湾地域研究、文化人類学	・ジェンダー ・台湾の歴史 ・日本の通過儀礼
金 希京	言語学	・バイリンガル教育・多言語・多文化共生 ・比較言語・文化
武 継平	中国現代文学	・20世紀中国文学 ・日中比較文学
山下 哲生	国際法学	・日本国憲法と自衛隊 ・国際法と自衛隊 ・原子力の平和利用と国際協力
山根 健至	比較政治学	・東南アジア諸国の民主化と民主主義 ・安全保障や平和構築における非国家主体の役割 ・東アジア地域の地域的なガバナンス

研究領域（研究志望調書記入用）

言語文化専攻	日本語文化コース	日本文学（古典）
		日本文学（近現代）
		日本文学（比較文学）
		日本史学
		日本語学
		日本語教育学
	英語圏言語文化コース	英語学
		イギリス文学
		アメリカ文学
		英語圏文学
		文化研究
社会科学専攻	国際産業社会コース	人口経済
		経済政策
		心理学
		解釈学
		社会厚生・福祉
		国際ビジネス・マネジメント
	国際関係コース	国際関係論
		政治学
		国際法学
		比較憲法学
		国際社会学
		ジェンダー研究
		比較文化
		比較文学
		比較社会

※研究志望調書の研究領域は上記の表から選ぶこと。

9 交通案内



- ◎ JR香椎駅から徒歩約15分（JR香椎駅には停車しない特急列車もあるので注意すること）
- ◎ 天神方面からの地下鉄利用は、貝塚駅で西鉄貝塚線乗換え「西鉄香椎駅」下車 徒歩約13分、「西鉄香椎花園前駅」下車 徒歩約10分
- ◎ 西鉄バス「天神郵便局前」乗車、「福岡女子大前」下車
（天神から約15分【都市高速経由】：下表参照）

系統番号	始発・経由	所要時間	行先
21A	天神郵便局前（都市高速経由）	15分	雁の巣レクリエーションセンター
26A	天神郵便局前（都市高速経由）	15分	赤間営業所
21	天神郵便局前	30分	雁の巣レクリエーションセンター・志賀島小学校前
23	西公園 天神郵便局前	30分	高美台1丁目・大蔵・西鉄三苦駅・香椎花園・新宮緑ヶ丘 （下原行は福岡女子大前に停車しません）
26	天神郵便局前	30分	赤間営業所

(付) 平成 31 年度福岡女子大学大学院人文社会科学研究科
言語文化専攻・社会科学専攻【博士前期課程】
学生募集要項（一般選抜・社会人特別選抜・留学生特別選抜）

1 募集人員

専攻・課程	募集人員		
	一般選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜
言語文化専攻 博士前期課程	4 人		
社会科学専攻 博士前期課程	4 人		
合計	8 人		

2 出願資格

次の各号の一に該当する女子が出願できる。但し、(1) (2) (3) の併願は不可。いずれか一つを選択して出願すること。

(1) 一般選抜

- ① 大学を卒業した者及び平成 31 年 3 月卒業見込みの者（学校教育法 102 条）
 - ② 大学評価・学位授与機構により学士の学位を授与された者及び平成 31 年 3 月までに授与される見込みの者（学校教育法施行規則第 155 条第 1 項第 1 号）
 - ③ 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者（学校教育法施行規則第 155 条第 1 項第 2 号）
 - ④ 外国の学校が行う通信教育を我が国において履修することにより当該国の 16 年の課程を修了した者（学校教育法施行規則第 155 条第 1 項第 3 号）
 - ⑤ 我が国において、外国の大学相当として指定した外国の学校の課程（文部科学大臣指定外国大学日本校）を修了した者（学校教育法施行規則第 155 条第 1 項第 4 号）
 - ⑥ 指定された専修学校の専門課程を修了した者（学校教育法施行規則第 155 条第 1 項第 5 号）
 - ⑦ 旧制学校等を修了した者（昭和 28 年文部省告示第 5 号第 1 号～第 4 号、昭和 30 年文部省告示第 39 号第 1 号）
 - ⑧ 防衛大学校、海上保安大学校、気象大学校など、各省大学校を修了した者（昭和 28 年文部省告示第 5 号第 5 号～第 12 号、昭和 30 年文部省告示第 39 号第 2 号）
 - ⑨ 本研究科において個別の入学資格審査により大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成 31 年 4 月 1 日までに 22 歳に達するもの（学校教育法施行規則第 155 条第 1 項第 8 号）
- ※ 上記⑨の出願資格で出願する者は事前審査を行うので、12 ページの「出願資格の事前審査について」を参照すること。

(2) 社会人特別選抜

入学時点で 2 年以上の社会人経験を有し、上記(1)の①から⑨のいずれかの出願資格を有する者

- ※ なお、⑨の出願資格で出願する者は事前審査を行うので、12 ページの「出願資格の事前審査について」を参照すること。

(3) 留学生特別選抜

日本の国籍を有しない女子で、次の各号の一に該当するものが出願できる。

- ① 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者及び平成 31 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
 - ② 外国において、学校教育における 16 年の課程に準ずる課程を履修した者及び平成 31 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
 - ③ 外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した後、我が国において大学を卒業した者及び平成 31 年 3 月 31 日までに卒業見込みの者
 - ④ 外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した後、我が国において大学に 3 年以上在学し、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと本研究科において認められた者
 - ⑤ 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成 31 年 4 月 1 日までに 22 歳に達するもの
- ※ 上記④、⑤のいずれかの出願資格で出願する者は事前審査を行うので、12 ページの「出願資格の事前審査について」を参照すること。

3 試験日

秋季試験 平成 30 年 9 月 22 日 (土)

春季試験 平成 31 年 2 月 16 日 (土)

4 試験場

福岡女子大学 (福岡市東区香住ヶ丘 1-1-1)

交通機関については、9 ページを参照すること。

5 試験科目 秋季試験、春季試験とも同じ試験科目、同じ時間帯で実施する。

言語文化専攻 博士前期課程			
区分	10:00~12:00(120分)		13:30~
一般選抜	筆記試験	<ul style="list-style-type: none"> ・英 語 ・専門分野 	面接試験*1
社会人 特別選抜		<ul style="list-style-type: none"> ・〈日本言語文化コース〉小論文 ・〈英語圏言語文化コース〉英 語 ・専門分野 	
留学生 特別選抜		<ul style="list-style-type: none"> ・〈日本言語文化コース〉小論文 (日本語による) ・〈英語圏言語文化コース〉英 語 ・専門分野 	

*1 英語圏言語文化コース志願者には、英語による口頭試問を含む。

社会科学専攻 博士前期課程			
区分	10:00~12:00(120分)		13:30~
一般選抜	筆記試験	<ul style="list-style-type: none"> ・英 語 ・専門分野 	面接試験
社会人 特別選抜		<ul style="list-style-type: none"> ・〈国際産業社会コース〉小論文 ・〈国際関係コース〉外国語 (英語、中国語、韓国語から1つ選択) ・専門分野 	
留学生 特別選抜		<ul style="list-style-type: none"> ・小論文 (日本語または英語による) ・専門分野 	

6 出願期間

秋季試験 平成 30 年 8 月 20 日 (月) ~8 月 24 日 (金) 17 時まで必着

春季試験 平成 31 年 1 月 11 日 (金) ~1 月 18 日 (金) 17 時まで必着

7 出願手続

入学志願者は、次の書類を「6 出願期間」の期間内に本学学務部 教務企画・入試班に提出すること。

出願書類を郵送するときは、必ず書留速達とし、封筒表面に「大学院人文社会科学研究科博士前期課程入学願書」と朱書きすること。なお、提出された出願書類及び納入金は、原則として返還しない。また、出願書類に不備があるものは、受理しない。(該当書類が英語以外の外国語表記の場合、必ず和訳文または英訳文を添付すること。)

(1) 入学願書及び受験票

本研究科所定様式(本要項に添付)を使用のこと。

(2) 研究志望調書

本研究科所定様式(本要項に添付)を使用のこと。

(3) 成績証明書

出身大学の学籍原簿又はそれに相当する単位取得を証明するもの。(要厳封)

(4) 最終学校の卒業(修了)証明書又は見込証明書

(5) 卒業論文又はこれに代わるもの(以下、「論文等」という。)

志願する専攻に関する論文等があれば、これを入学願書に添えることができる。(コピー可、原則として返却しない。)

(6) 入学審査料

入学審査料は30,000円。納入方法は、銀行窓口での振込「電信扱」に限る。納入後は、原則として返還しない。本課程案内最終ページの入学審査料振込依頼書を切り離し、太枠で囲まれている記入欄に必要な事項をすべて黒ボールペンで正確・明瞭に記入し、A・B・C票を切り離さず銀行へお持ちください。ただし、振込手数料は、志願者に負担していただきます。振込の後、銀行窓口で返還されたB・C票のうち、C票(「福岡女子大学(大学院)」入学審査料振込金受付証明書)を、入学願書裏面の入学審査料振込金受付証明書貼付欄に貼ってください。

(7) 写真(2枚)

たて4cm×よこ3cm、正面上半身、無帽、出願期間以前3ヶ月以内に撮影したもの2枚を、それぞれ入学願書、受験票に貼付すること。

(8) 受験票返信用封筒

返信用封筒(長形3号120mm×235mm)に宛先、郵便番号を明記し、82円切手を貼付すること。

(9) 在職期間証明書(社会人特別選抜志願者のみ)

本研究科所定様式(本要項に添付)を使用のこと。

◎ 出願資格の事前審査について

10ページ「2 出願資格 (1)⑨ または (3)④、⑤」のいずれかにより出願しようとする者についての「大学を卒業した者と同等以上の学力」の認定は、次により行う。なお、必要のある場合は学力検査、面接等を行う。

(1) 提出書類

書 類 等	摘 要
ア. 入学者選抜出願資格認定申請書	本研究科所定の様式によること。
イ. 「7 出願手続」に定める書類 (但し、入学審査料を除く。)	本募集要項「7 出願手続」に定める書類 (入学審査料は提出しないこと。)

上記ア及びイは、一括して提出すること。なお、郵送する場合は必ず書留速達とし、封筒表面に「大学院人文社会科学研究科出願書類及び出願資格認定申請書在中」と朱書きすること。

(2) 提出期間

秋季試験 平成30年7月9日(月)～7月13日(金)17時まで必着

春季試験 平成30年12月3日(月)～12月7日(金)17時まで必着

(3) 認定の結果

認定の結果は、次の期日までに本人に郵便又は電話で通知する。

秋季試験 平成30年8月3日(金)

春季試験 平成30年12月27日(木)

※ 認定された者は、11ページ「6 出願期間」の期間内に上記「7 出願手続 (6) 入学審査料」に記載する方法により入学審査料を納入すること。

8 合格発表

秋季試験 平成 30 年 10 月 5 日(金)

春季試験 平成 31 年 2 月 22 日(金)

合格発表日の 14 時頃、本学正門横掲示板に掲示するとともに、合格者には本人あてに郵送で通知する。

なお、本学のウェブサイトにおいても合格者の受験番号を掲載する。ただし、公式の合格発表については、必ず本学掲示又は合格通知書で確認すること。電話による可否の問い合わせは一切受け付けない。

9 入学手続

(1) 入学手続期間

秋季試験合格者 平成 30 年 10 月 9 日(火)～10 月 16 日(火) 17 時まで

春季試験合格者 平成 31 年 2 月 25 日(月)～3 月 4 日(月) 17 時まで

(郵送の場合、必ず書留速達とし、秋季試験合格者は 10 月 16 日(火) 17 時までに、春季試験合格者は 3 月 4 日(月) 17 時までに必着のこと) 持参の場合、受付時間は 9 時から 17 時までとする。土・日・祝日は行わない。上記期間中に手続を完了しない場合、入学を辞退したものと取り扱う。

(2) 提出書類

ア. 誓約書(本研究科所定のもの 合格通知書と同封して郵送する。)

イ. 住民票(留学生特別選抜については、市町村長が発行する在留資格及び在留期間を明記したもの。出願者以外の世帯員については証明不要)

ウ. 外国人で入学許可が出国の要件となっている国外在住者については、外務省在外公館又は日本国政府の承認した外国政府その他の発行する留学資格証明書・紹介状・推薦書等

エ. その他必要書類等は、合格通知とともに通知する。

(3) 納入金(平成 30 年度の額であり、一部変更になる場合がある。)

入学金 県内の者 282,000 円

県外の者 520,000 円

授業料 前期分 267,900 円(年額 535,800 円)

※ 入学手続では入学金のみの納入となります。

※ 入学金について「県内の者」とは、(ア)入学しようとする者の生計の主たる維持者が入学しようとする年の前年の 3 月 1 日から入学許可の日まで引き続き福岡県内に居住している者、(イ)入学しようとする者の生計の主たる維持者が勤務等の事由により県外居住者であっても、入学者を含む家族の大半が(ア)に掲げる期間中福岡県内に居住している者をいう。

なお、上記の県内居住については、住民票が期間中県内にあるかどうかにより判断する。「県外の者」とは、上記以外の者をいう。

※ 在学中に授業料の額の改定が行われた場合には、改定後の授業料の額が適用されます。

※ 平成 29 年九州北部豪雨により被災した福岡女子大学志願者の入学金及び入学考査料について免除の特例措置を実施します。詳しくは URL をご覧ください。 http://www.fwu.ac.jp/exam_info/h31/

(4) 入学手続場所

福岡女子大学 学務部 教務企画・入試班 〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘 1 丁目 1 番 1 号

TEL 092-661-2417 内線 2212

(5) その他不明な点は、下記まで問い合わせること。

福岡女子大学 学務部 教務企画・入試班 〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘 1 丁目 1 番 1 号

TEL 092-661-2417 内線 2212

◎ 障害がある入学志願者の事前相談

障害がある入学志願者で、受験上および修学上配慮を必要とする者は、相談に応じますので、事前に学務部 教務企画・入試班（092-661-2417）にご相談ください。

◎ 留学生への支援制度（平成30年度実績）

留学生として本学大学院に入学した者（県外の者に限る）には、その入学時の成績等により、入学金が半額となる制度及び入学後の研究計画書の内容と面接により、授業料が半額となる制度があります。また、本学に設置されている学生寮に入寮することもできます。ただし、入寮できる人数には限りがあります。

◎ 試験結果の開示

試験結果は受験者本人に限り、学務部 教務企画・入試班において開示します。期間は、秋季試験は平成30年10月22日（月）から11月2日（金）、春季試験は平成31年4月8日（月）から4月19日（金）までです。ただし、いずれも9時から17時までとし、土・日・祝日は開示を行いません。開示を申請する際には、本大学院入試の受験票をお持ちください。

平成31年度福岡女子大学大学院人文社会科学部研究科 【博士前期課程】 入試日程

秋季試験	
出願期間	平成30年8月20日（月）～8月24日（金）17時まで
試験日	平成30年9月22日（土）
合格発表	平成30年10月5日（金）
入学手続期間	平成30年10月9日（火）～10月16日（火）

春季試験	
出願期間	平成31年1月11日（金）～1月18日（金）17時まで
試験日	平成31年2月16日（土）
合格発表	平成31年2月22日（金）
入学手続期間	平成31年2月25日（月）～3月4日（月）

福岡女子大学大学院人文社会科学研究所入学願書（博士前期課程）

志望専攻・コース名 <small>(いずれかを○で囲むこと)</small>	言語文化専攻		社会科学専攻	
	<small>(日本語文化コース・英語圏言語文化コース)</small>		<small>(国際産業社会コース・国際関係コース)</small>	
選抜の区分 <small>(いずれかを○で囲むこと)</small>	一般選抜・社会人特別選抜・留学生特別選抜			
フリガナ			受験番号	※記入しないこと。
氏名			国籍	※留学生のみ記入すること。
生年月日	昭和・平成 年（西暦 年） 月 日（満 歳）			
現住所	〒 電話（ ） —			
保証人 <small>(続柄)</small>	氏名 <small>()</small>	住所 電話（ ） —		
年 月	履歴事項（高等学校卒業から記入すること。職歴含む。留学生は小学校から記入）			
・				写真貼付欄 写真はたて4cm、よこ3cmの大きさ 正面上半身無帽で出願前3ヶ月以内に撮影したもの 受験票と同じ写真を貼付すること
・				
・				
・				
・				
・				
・				
・				
・				
・				
合格通知の送付先住所	〒 電話（ ） —			

-----切り取らないこと-----

福岡女子大学大学院人文社会科学研究所入学受験票（博士前期課程）

フリガナ				写真貼付欄 写真はたて4cm、よこ3cmの大きさ 正面上半身無帽で出願前3ヶ月以内に撮影したもの 入学願書と同じ写真を貼付すること
氏名				
受験番号	※記入しないこと。			
試験日程 <small>(いずれかを○で囲むこと)</small>	平成30年9月22日（土）・平成31年2月16日（土）			
志望専攻・コース名 <small>(いずれかを○で囲むこと)</small>	言語文化専攻		社会科学専攻	
	<small>(日本語文化コース・英語圏言語文化コース)</small>		<small>(国際産業社会コース・国際関係コース※)</small>	
選抜の区分 <small>(いずれかを○で囲むこと)</small>	一般選抜・社会人特別選抜・留学生特別選抜			
外国語	※社会科学専攻 国際関係コース 社会人特別選抜志望者のみ受験する外国語を一つ囲むこと。 英語 ・ 中国語 ・ 韓国語			

入学考査料振込金受付
証明書貼付欄

試験科目	筆記試験	10 : 00～12 : 00	面接試験	13 : 30～
受験上の注意				
1. この受験票は試験当日必ず携帯し、試験室では机の上に置くこと。				
2. やむを得ない理由で遅刻した場合、30分以内であれば受験を認める。				
3. 試験開始の10分前に試験室に入室すること。				

研究志望調書

氏名	カガナ	志望専攻・コース名※1	言語文化専攻	社会科学専攻	受験番号	※記入しないこと。
			日本語文化コース 英語圏言語文化コース	国際産業社会コース 国際関係コース	研究領域	※3
選抜の区分※2		一般選抜 ・ 社会人特別選抜 ・ 留学生特別選抜				
これまでの研究課題とその内容						
志望の動機						

※1～2 の欄は、該当する項目を○で囲むこと。

※3 は 8 ページの研究領域を参考にすること。

これからの研究課題とその内容

入学者選拔出願資格認定申請書

平成 31 年度福岡女子大学大学院人文社会科学研究科 言語文化専攻博士前期課程・社会科学専攻博士前期課程に出願したいので、事前審査をお願いします。

年 月 日

氏名

印

住所

〒

最終卒業（修了）機関名

卒業（修了）年月日

年 月 日

在職期間証明書

現住所 〒 _____

受験者氏名 _____

年 月 日

所属機関名（事業所名）	
職 種	
在職期間又は在職した期間	自 年 月 日～ 至 年 月 日

住所（所在地） 〒 _____

勤務先名 _____

職 名 _____

氏 名 _____ 印

